

土木学会地震工学委員会

2026年8月6日令和8年熊本地震（Mj7.1）に関する速報会

令和8年（2026年）熊本地震 断層について

吉見雅行

（産業技術総合研究所）

令和8年熊本地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表します。
被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

産総研緊急調査チーム（赤井，太田，丸山，吉見，吾妻，二宮，大橋，重松，宮下，大上，央倉（産総研），小林（新潟大））

※2026.8.6現在

日奈久断層帯の活断層評価

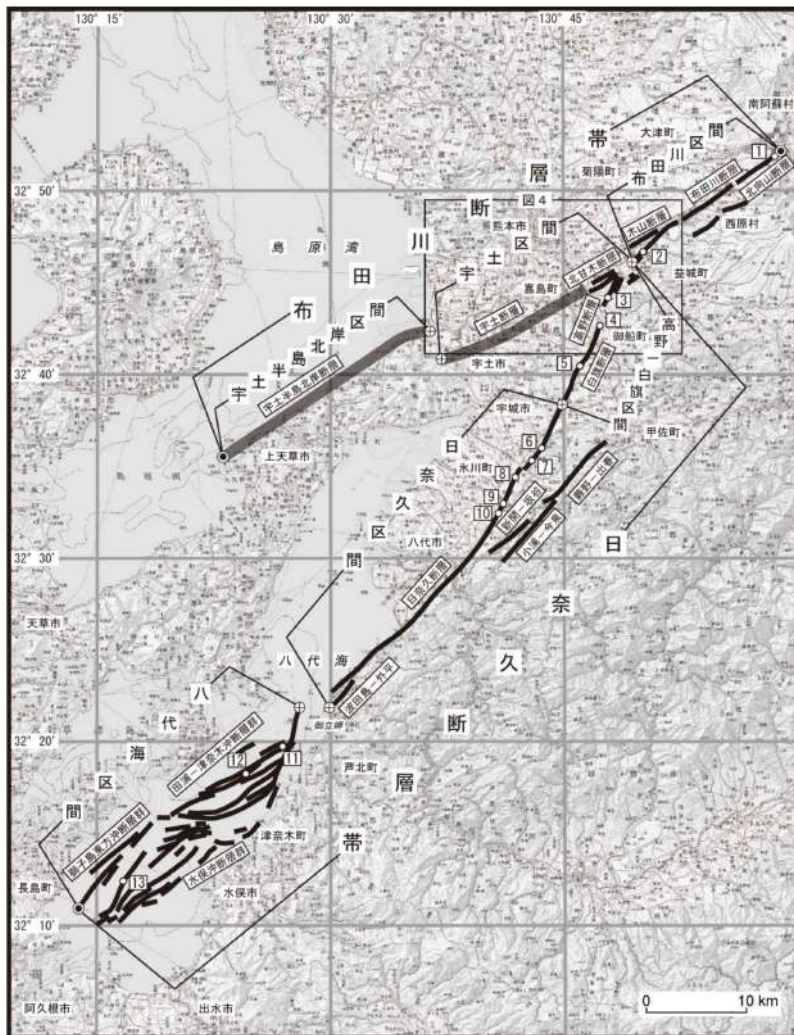


図2 布田川断層帯・日奈久断層帯の活断層位置と調査地点

■断層傾斜

高野一白旗：高角， 日奈久：高角北西傾斜

■断層ずれの向きと種類

南東側隆起の上下成分を伴う右横ずれ断層

■ 1回のずれの量

高野一白旗区間：2m

日奈久区間：3m程度の上下方向のずれとそれ以上の量の右横ずれ

■将来の活動区間

高野一白旗区間， 日奈久区間， 八代海区間（過去の活動区間と同じ）

■将来の地震規模

高野一白旗区間：M6.8程度

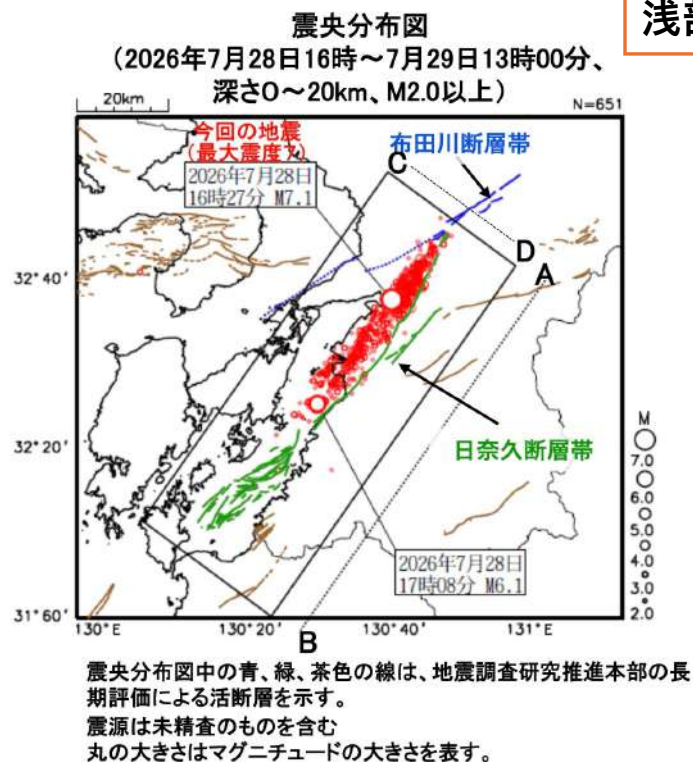
日奈久区間：M7.5程度

■平均変位速度

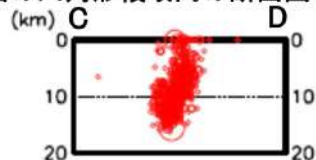
日奈久区間：0.7 m/千年程度（右横ずれ）

震央分布および波形インバージョン結果

余震は日奈久断層帯高野ー白旗区間と日奈久区間に分布
断層すべり量の大きな場所は宇城市付近。
浅部は一様なすべりにも見える



上図の四角形領域内の断面図 (C-D投影)



(気象庁)

- 地震モーメント 2.1×10^{19} Nm (Mw 6.8)、平均すべり量 0.8 m、最大すべり量 2.4 m
- 第1タイムウィンドウフロントの破壊伝播速度 2.8 km/s
- 大きなすべりは、破壊開始点から浅部に向かって広がり、南北約 12 km の範囲に集中
- 仮定した断層面の南西部でのすべり量は小さく、南端の設定については精査が必要な可能性あり

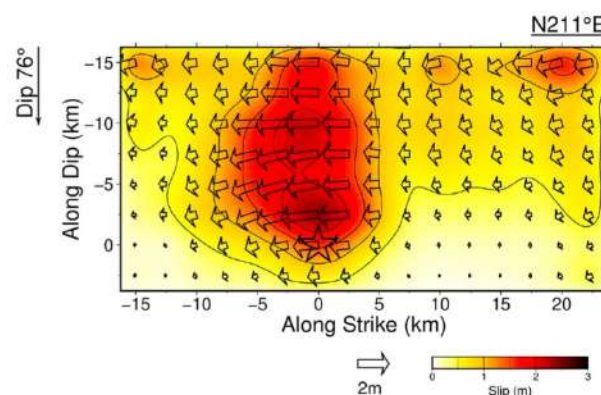


図1: 断層面上の最終すべり分布

(☆は破壊開始点、断層面は解析上設定したもの)

(京大防災研)

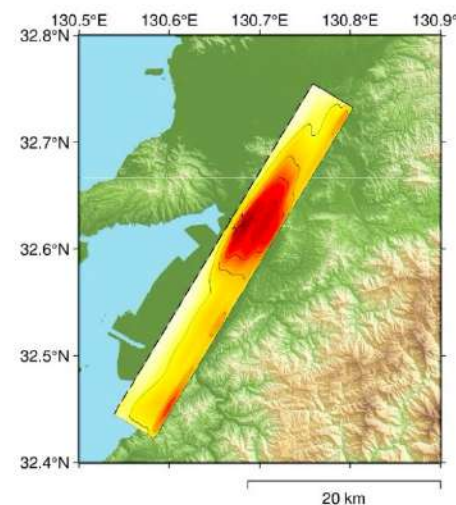


図2: すべり分布の地表投影

地震調査委員会 (2026) 令和8年熊本地震の評価

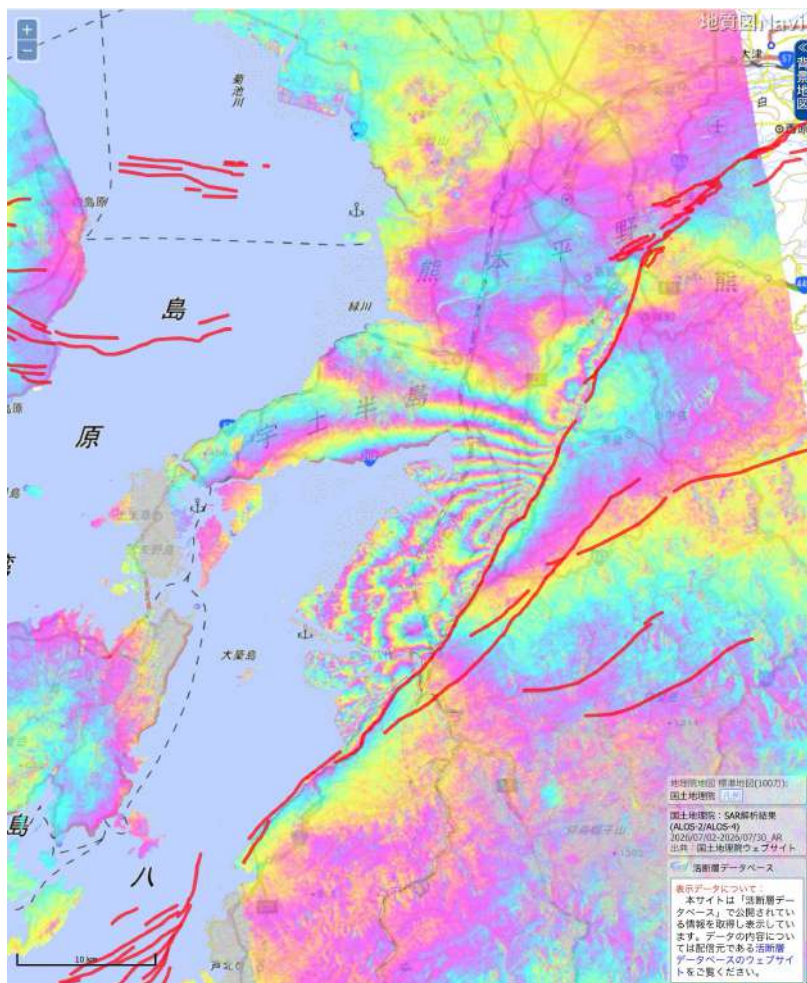
2026年熊本地震：地殻変動の概要

(国土地理院)

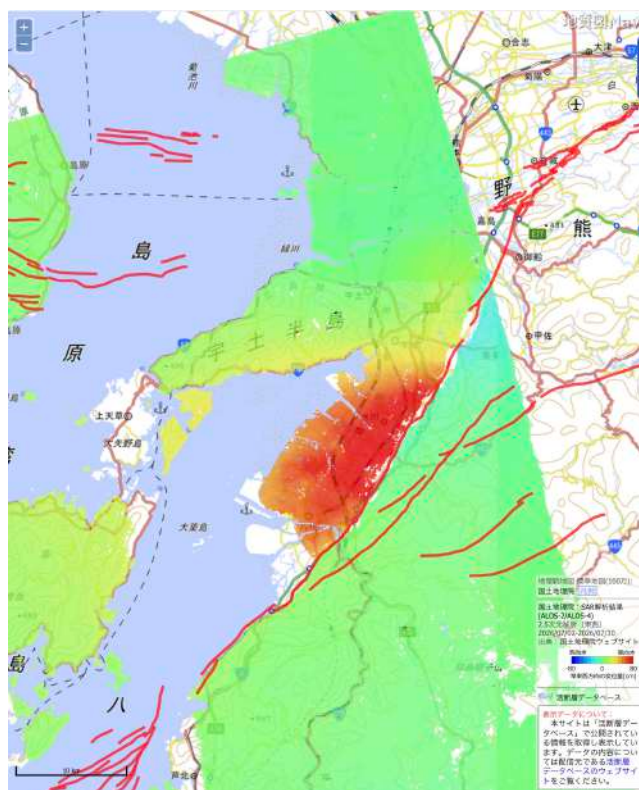
断層トレースを境界とする地殻変動

八代平野域に顕著な変動

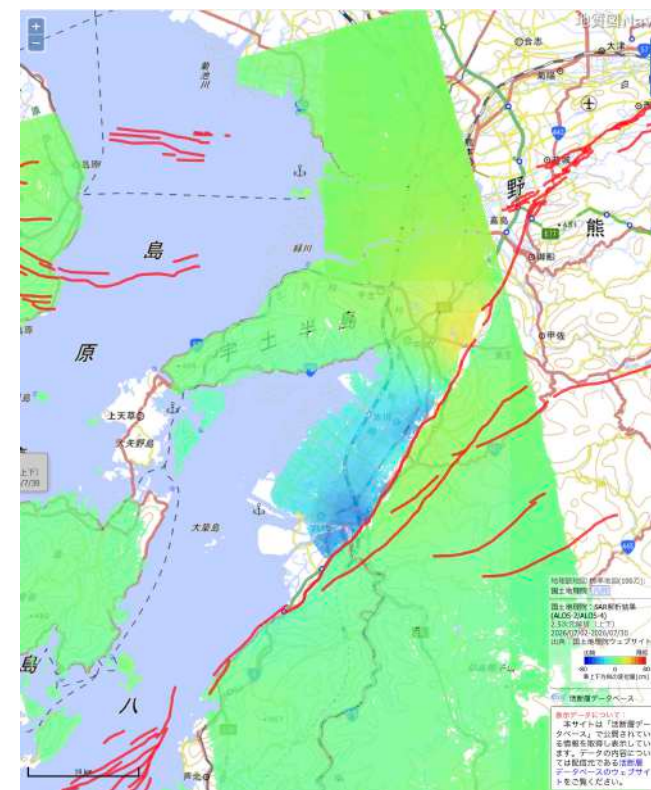
右横ずれ＋北西側低下と整合的な2.5次元解析結果



SAR干涉画像 (2026/7/2-2026/7/30)



2.5次元解析 (東西)
(2026/7/2-2026/7/30)



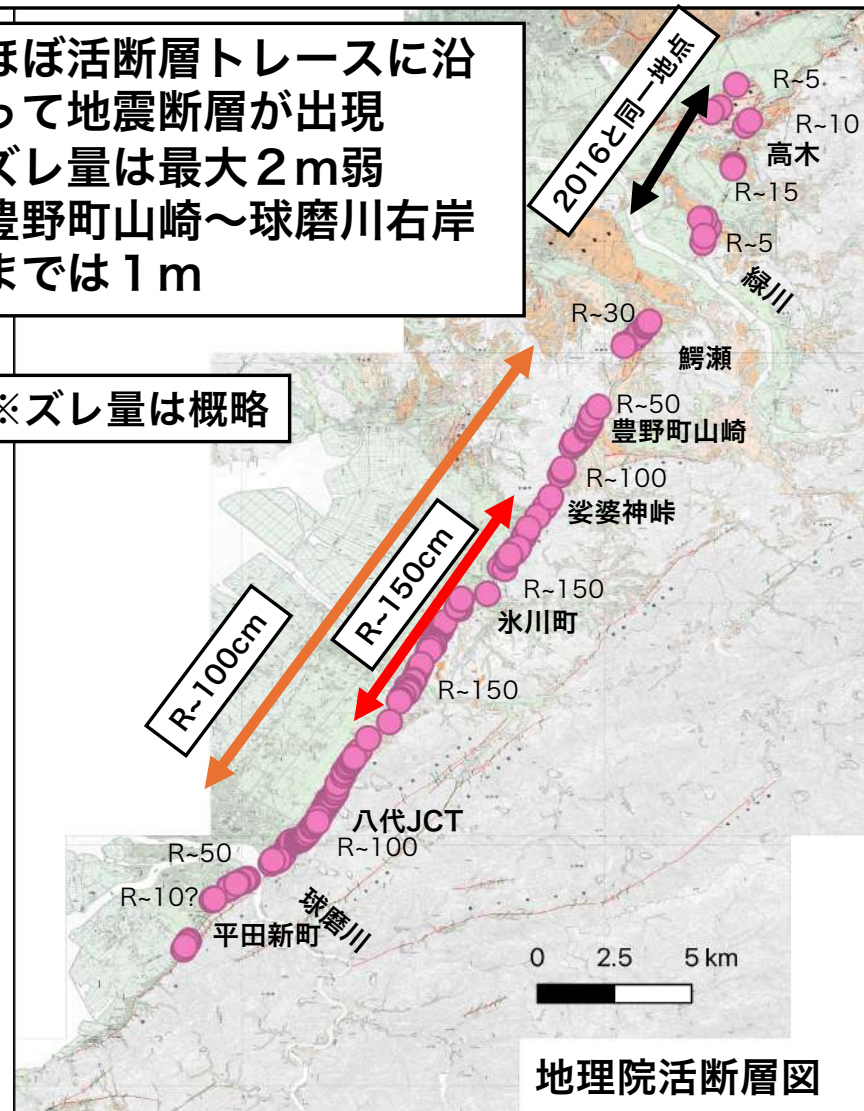
2.5次元解析 (上下)
(2026/7/2-2026/7/30)

断層確認概略位置図 (2026/8/5現在) (産総研 緊急調査チーム)



ほぼ活断層トレースに沿って地震断層が出現
ズレ量は最大2m弱
豊野町山崎～球磨川右岸
までは1m

※ズレ量は概略



概要：令和8年熊本地震の地震断層（調査中）

- 日奈久断層の北端から八代市平田新町付近まで地震断層を確認
 - 端点を結ぶと長さ約37km
 - 確認できない区間あり
- ズレ量が1 mに達する区間は豊野町山崎の南方から球磨川右岸まで。
 - 八代平野では2 m近くに達する場所もある。
 - 南方は急激に減衰。
 - 北方は次第に減衰。
 - 2016年熊本地震と同位置に同様な変状が出現（ $R < 20$ ）。
- 八代平野では活断層線よりも平野寄りにズレが現れた地点がある。
 - 八代JCT～八代神社では断層が屈曲し，様々なズレ形態
 - 八代JCT以南では活断層線よりも断層走向が西寄りに遷移
 - 断層の南端は確定できない。干拓地の泥質地盤で変位分散か？

ズレ量分布

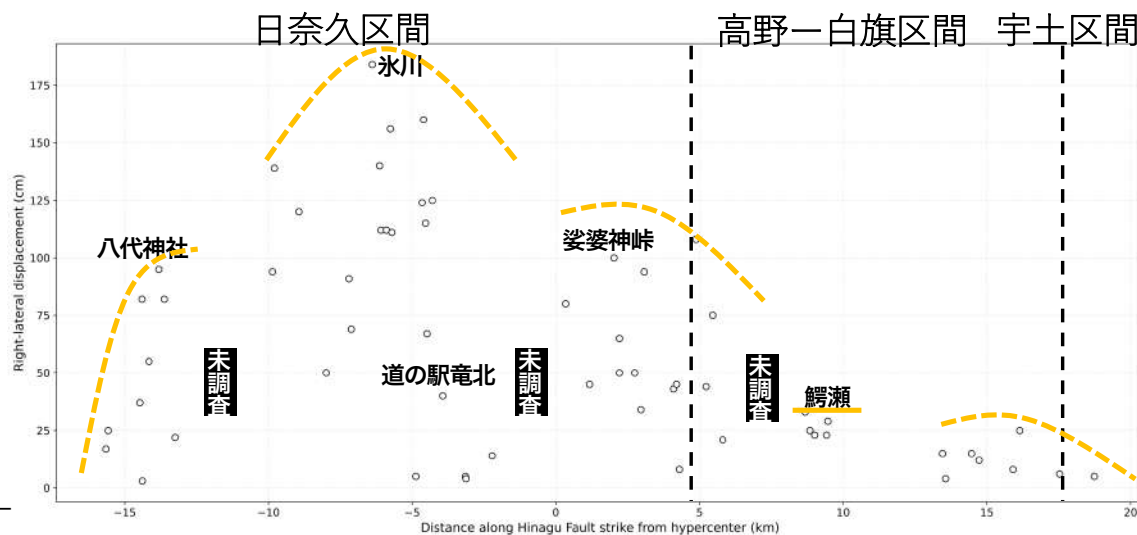
産総研緊急調査団
2026.8.6時点
まとめ（暫定）

※未踏査は未測定を含む

※並走部の足し合わせはしていない

右横ずれ量

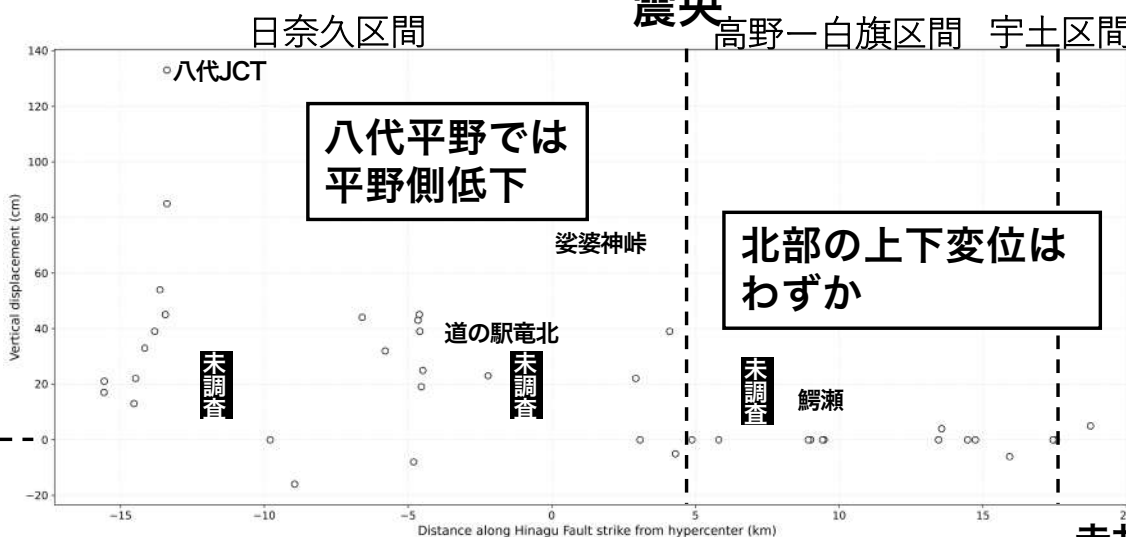
南西←



N30Eに投影

上下ずれ量

西低下
東低下



N30Eに投影

赤井ほか（2026）

現地写真（豊野町歌の島）

ほぼ水平な断層条線

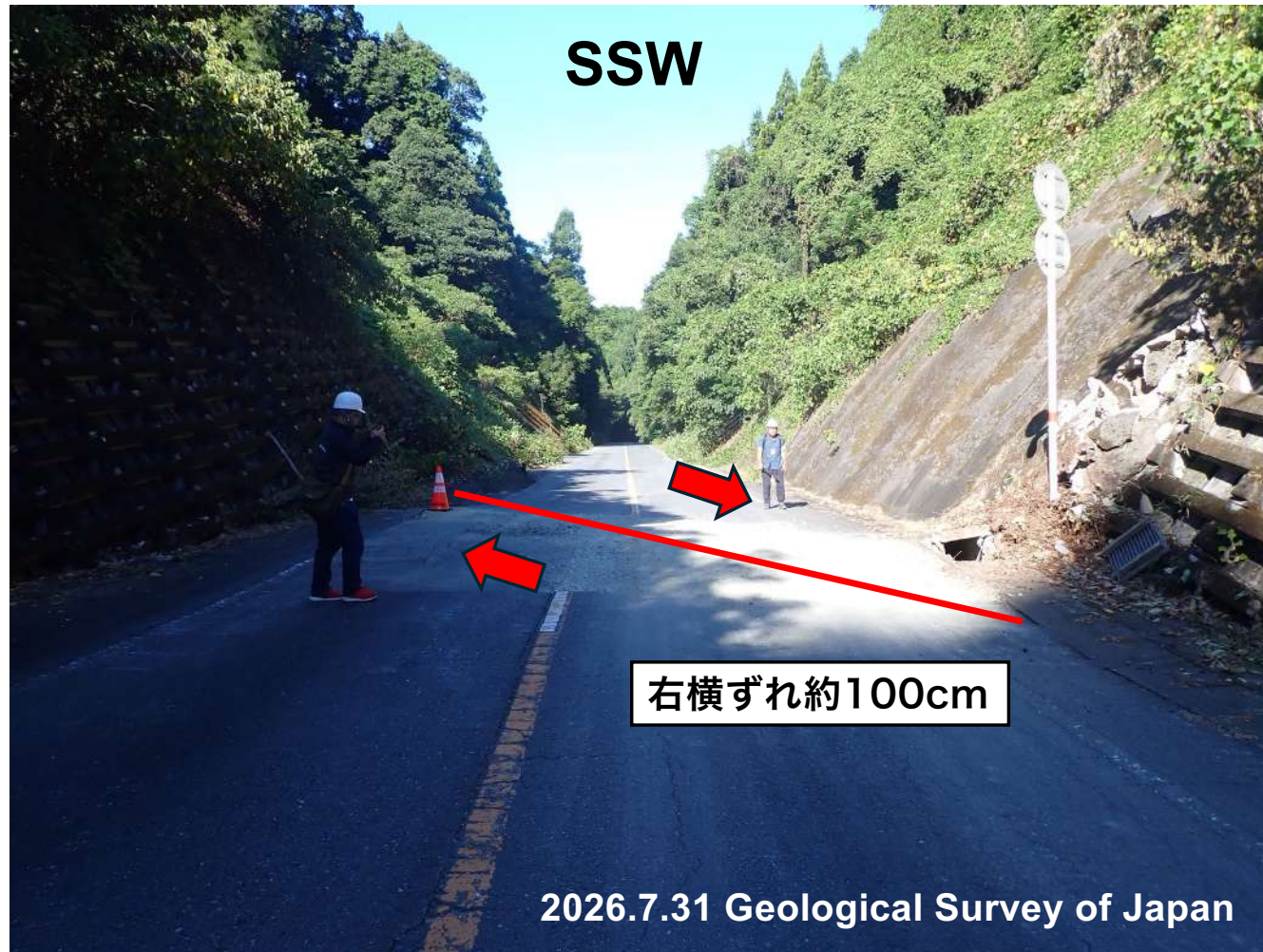


2026.8.1 Geological Survey of Japan

豊野町歌の島

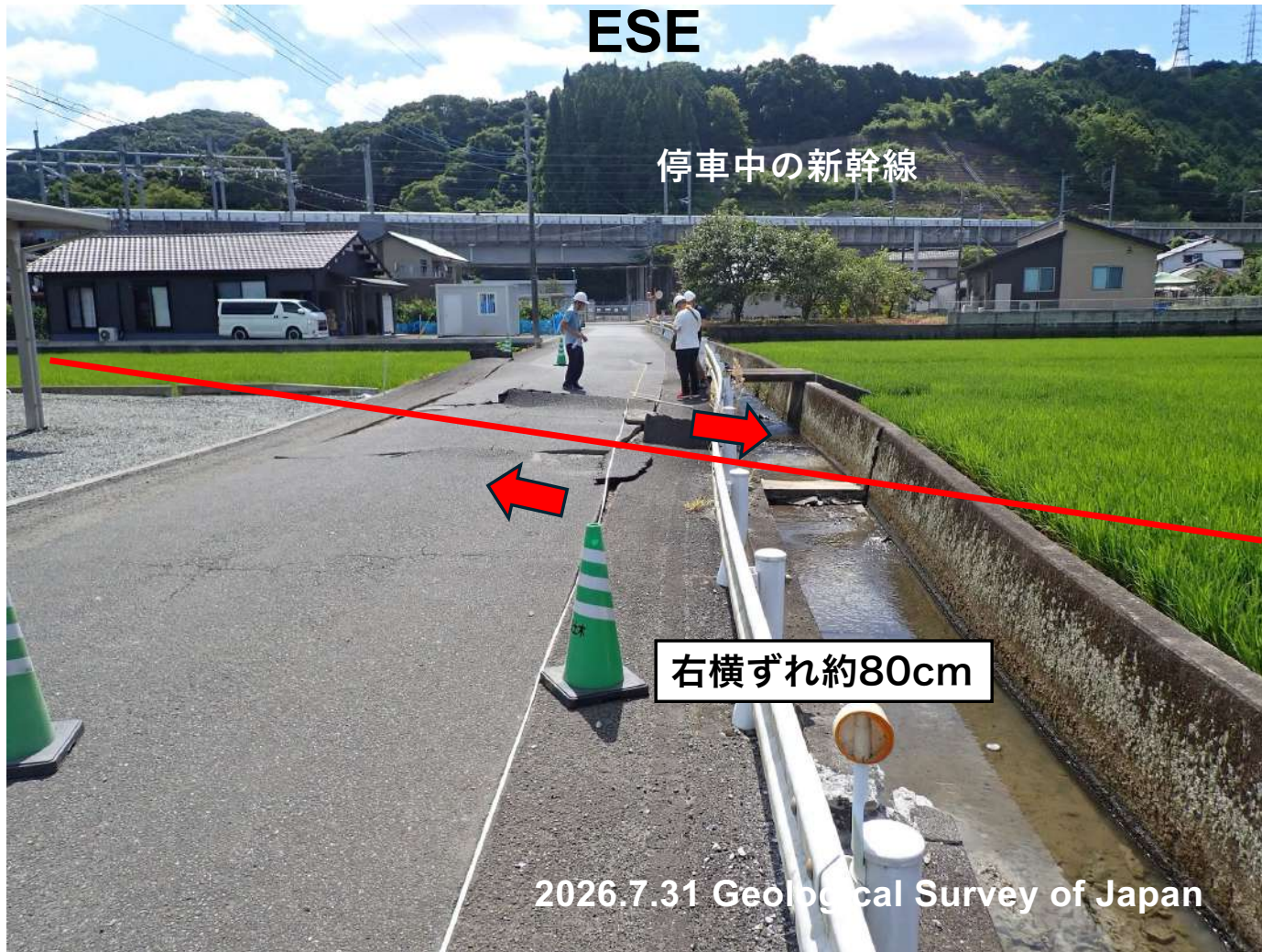


現地写真 (娑婆神峠)



娑婆神峠

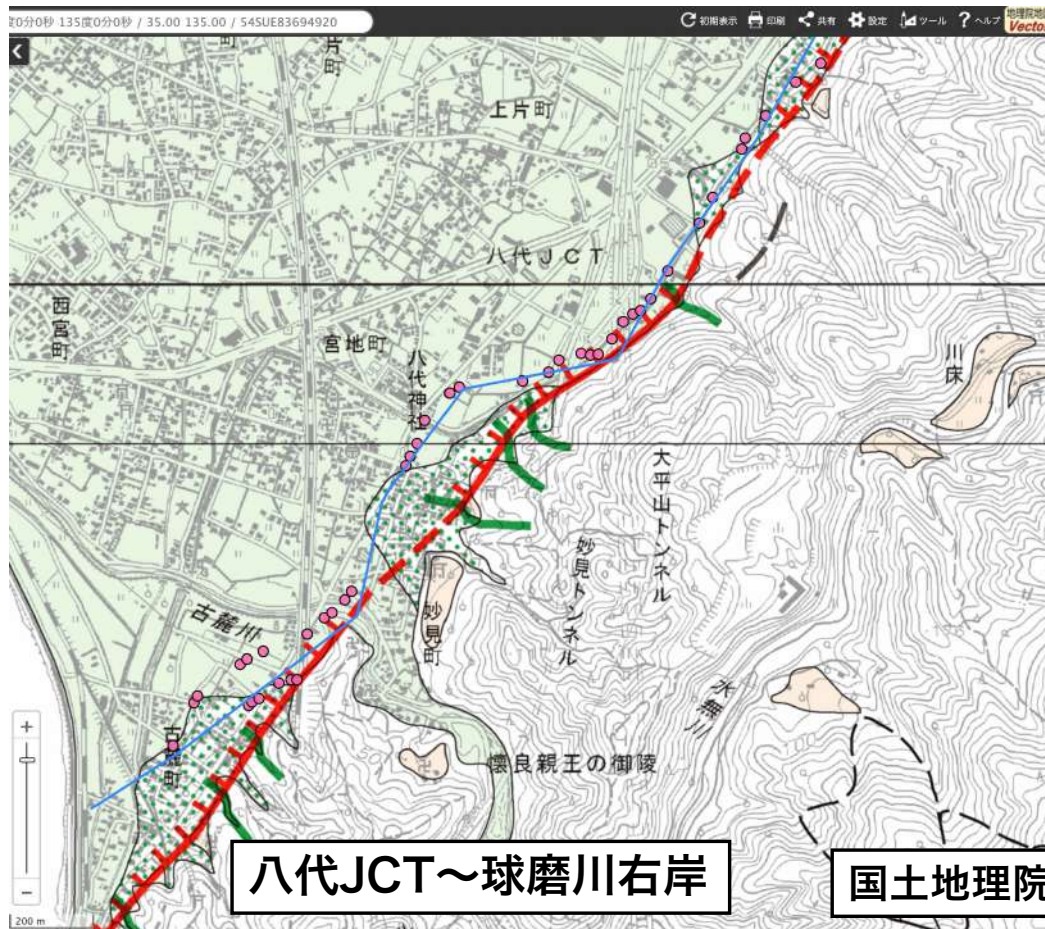
現地写真（球磨川右岸，新幹線の南西）



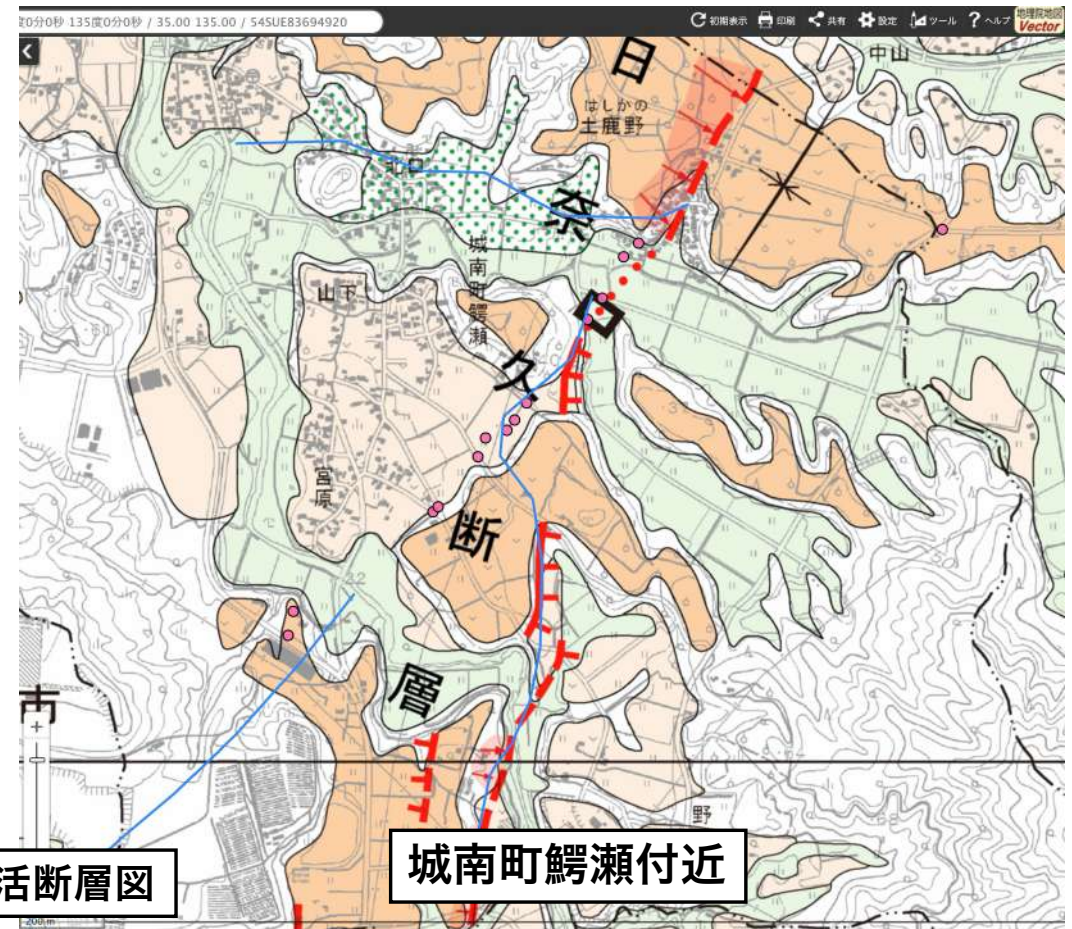
球磨川右岸

地震断層位置と活断層トレース

既存活断層トレースからやや離れた位置に地震断層が出現した地域もある



国土地理院活断層図



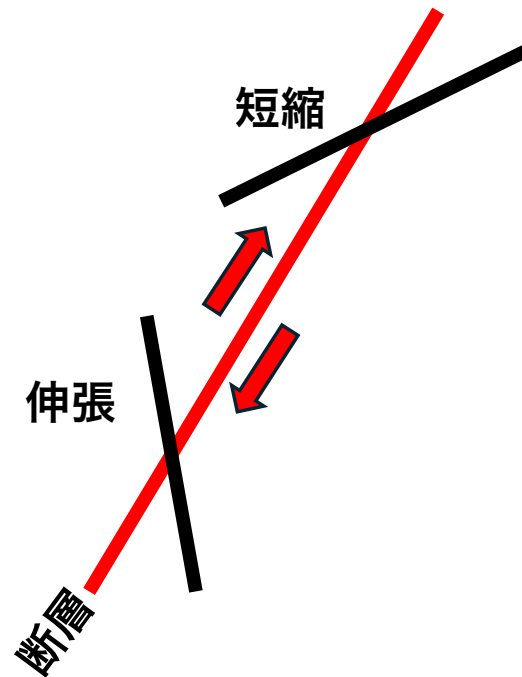
青線：SARから読み取った不連続線暫定版（国土地理院）
ピンク丸：地震断層確認位置（産総研，暫定）

断層変位による構造物被害

地震断層の構造物に，相対変位もしくは強制変位による被害が見られた。

線状構造物は断層交差角に応じた変形を受けていた。

- 高速道路（伸張，短縮）
- 新幹線（伸張）
- 水路
- 学校
- 戸建て
- etc..

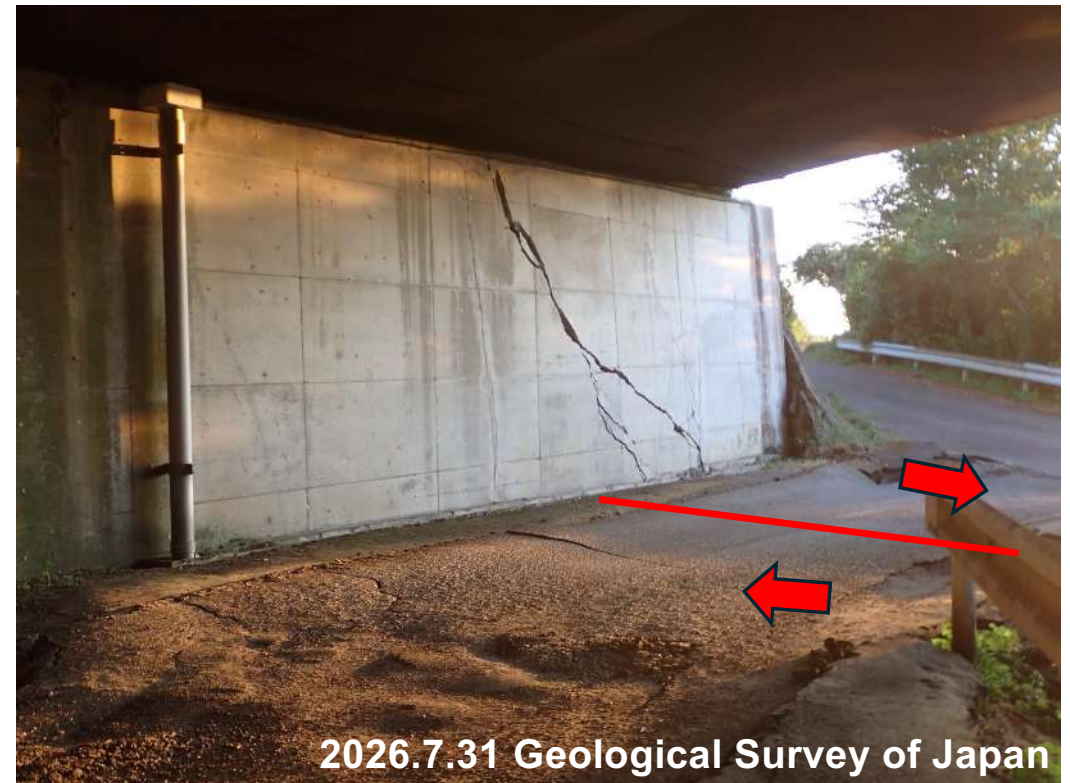
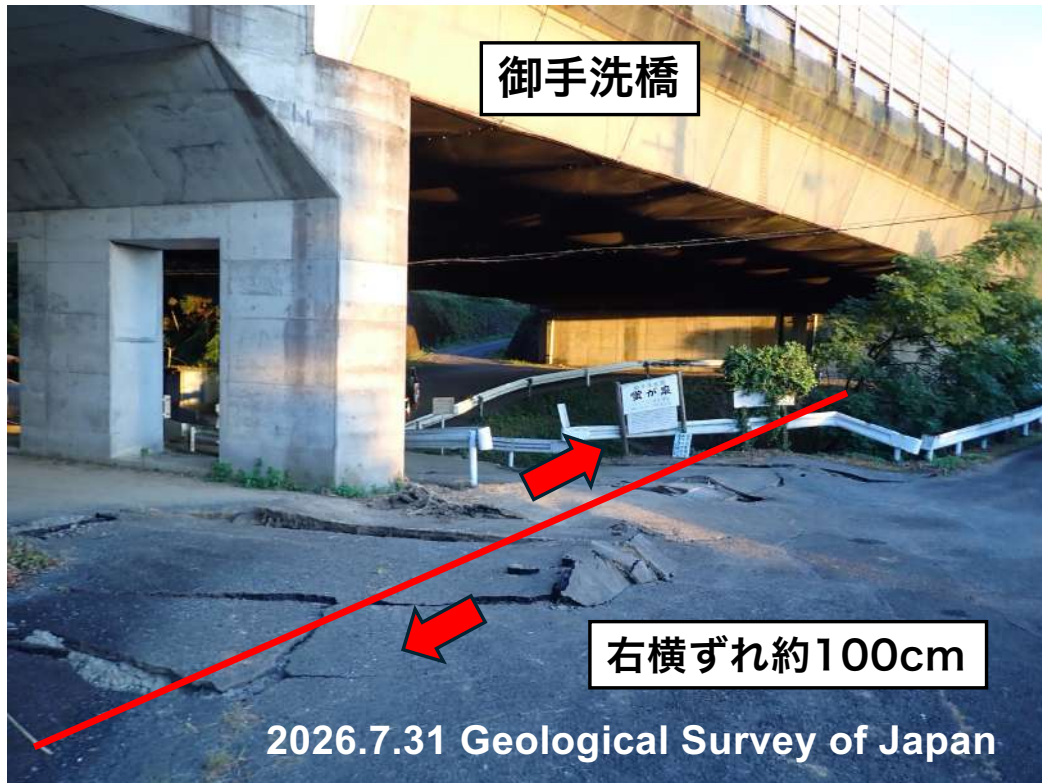


断層交差角と線状構造物の応答

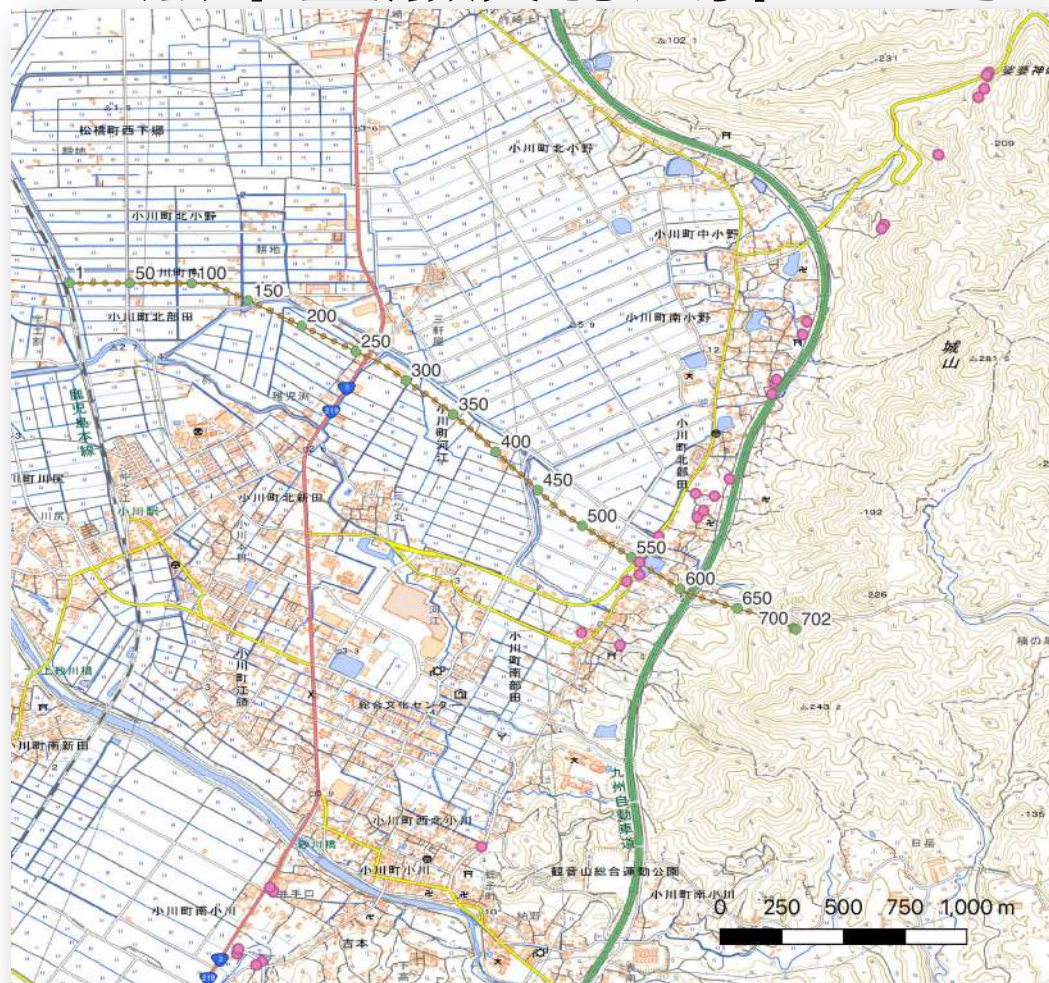
高速道路付近の地震断層



高速道路下の地震断層

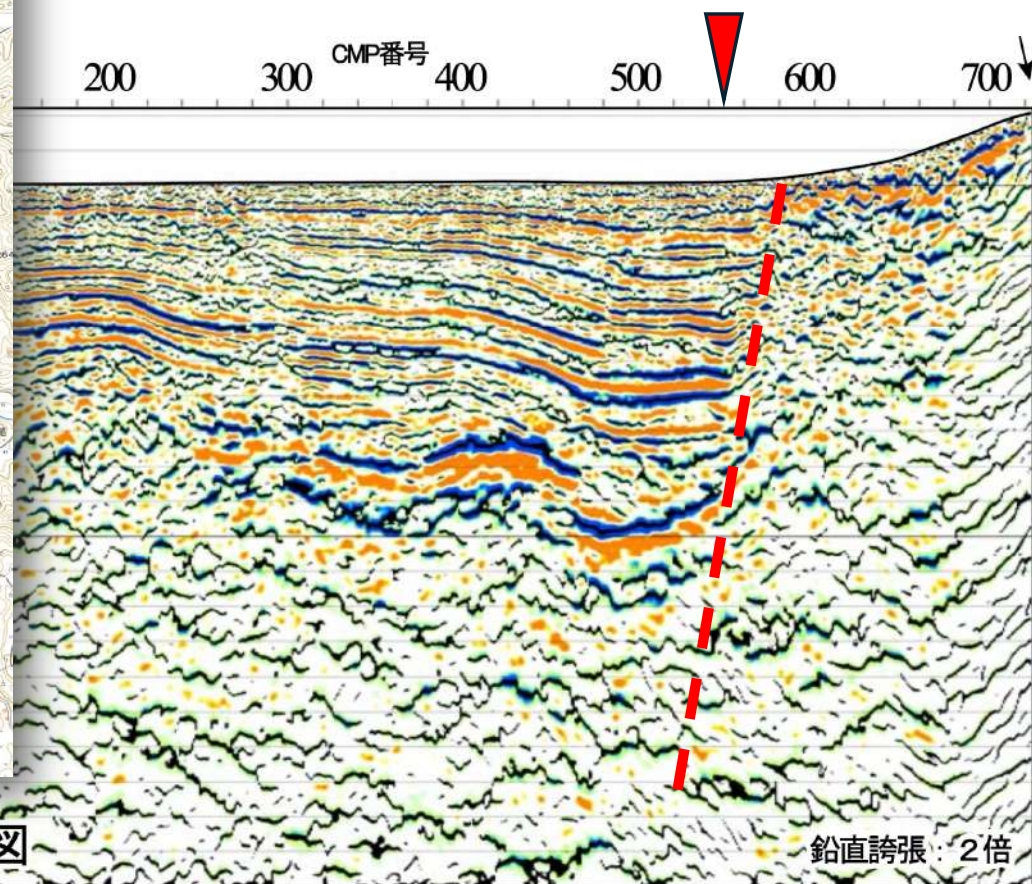


熊本重点反射法探査 宇城測線と断層確認位置



深部構造探査で認識できる断層位置よりも平野側

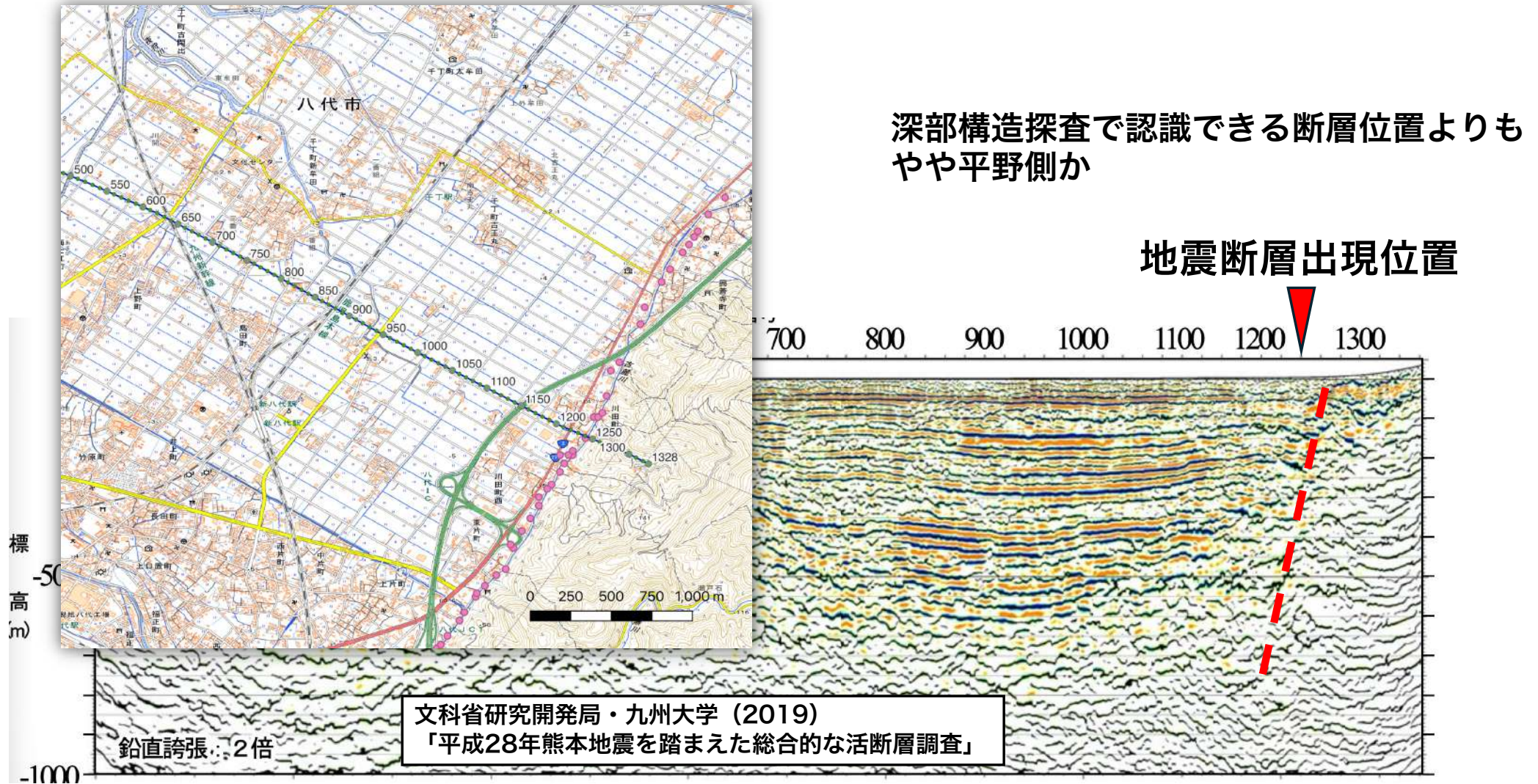
地震断層出現位置



文科省研究開発局・九州大学 (2019)
「平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査」 →

深度断面図

熊本重点反射法探査 八代測線と断層確認位置



まとめ：令和8年熊本地震の地震断層

- ほぼ既往の活断層トレースに沿って地震断層が出現
 - 右横ずれ主体。八代平野では平野側低下成分含む。
 - 日奈久断層の北端から八代市平田新町付近まで
 - 豊野町山崎から球磨川右岸までは右横ずれ量1 m程度以上（最大2 m程度）
 - 確認できない区間あり（山崎～鰐瀬南方，鰐瀬北方～緑川）
 - 緑川以北では2016年地震断層と同位置，同形態（ずれ量は小さい）
 - 八代平野ではトレースよりも平野側に断層が出現したところもある
 - 球磨川以南では既往トレースから逸れる
 - 地震本部の活断層評価（上下3 m，それ以上の右横ずれ）より小さいズレ量
- 地震断層上の多様な構造物に相対変位，強制変位による被害
 - 線状構造物では，断層交差角に応じた被害形態
 - 個別構造物では，断層による切断，ねじれ，ゆがみ，傾斜